

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所”北浜”に2012年2月に漂着した魚類

久保田 信¹・田名瀬英朋²

Stranding records of fishes on “Kitahama beach” of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University, Shirahama, Wakayama Prefecture, Japan in February, 2012

Shin Kubota¹ and Hidetomo Tanase²

- 1 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
(〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459)
2 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 676

はじめに

白浜半島のほぼ先端に所在する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所の北側に位置する通称“北浜”(砂浜部の長さは約 400 m)で種々の生物の漂着調査を実施してきたが(久保田, 2006 参照)、2011年1月末-2月中旬の3週間の期間中に大量の魚類(28科53属84種871個体)が50年ぶりに水温低下により死亡漂着した(久保田ほか, 2011)。この時節には魚類と同時に熱帯系の巻貝であるタガヤサンミナシ *Conus (Darioconus) textile* の新鮮な貝殻も異例の多数が漂着した(平澤・久保田, 2011)。今回、その翌年の2012年の冬季、水温が最も低下する2月に特に留意して凍死した魚類調査を実施した結果を報告する。

結果と考察

2012年1-2月に死亡漂着した魚類は、毎日、全くなしか、あつてもごく少数(数個体以下)であった。この期間中、ただ1日だけであるが、最多の5種が死亡漂着した。それは2012年2月17日で、次の5種、ミツボシクロズメダイ *Dascyllus trimaculatus* の幼魚(図1, 上段右)、モンガラカワハギ *Blistoides conspicillum* (上段左)、シマウミスズメ *Lactoria fornasini* (中段右)、ウミスズメ *L. diaphana* (中段左)、コモンフグ *Takifugu poecilonotus* (下段)が死亡漂着した。4種は1個体ずつであったが、ウミスズメだけは2個体が漂着した。この期間中、他の日に死亡漂着した上記以外の種は、ツマジロモンガラ *Sufflamen chrysopterum* がただ1個体であった。



図 1. 瀬戸臨海実験所”北浜”に
2012年2月17日に死亡漂着した
5種の魚類

なお、番所崎を一周して調査した日数はわずか数日と限られているが、死亡漂着した魚類の追加種は、コンゴウフグ *Lactoria cornuta* 1種1個体であった。厳冬期にあたる2012年2月の水温は、和歌山県田辺湾の湾口に設置された京都大学防災研究所白浜海象観測所で測定されているが、定置水温（水深10m）は、平均水温（日平均）16.20℃（幅13.99℃[2月12日] - 17.22℃[2月29日]）で、2011年2月の水温（平均水温（日平均）14.3℃，幅12.24℃ - 18.25℃）より平均で約2℃高かったことが2012年は凍死が稀であったことに結びついていると推察される（久保田ほか，2011）。

謝辞

海水温の観測データをご教示下さった京都大学防災研究所白浜海象観測所の久保輝広氏に感謝いたします。

引用文献

- 平澤 康太・久保田 信. 2011. 和歌山県田辺湾におけるタガヤサシミナシ（イモガイ科）の異例の数の漂着. 漂着物学会誌, 9: 17-21.
- 久保田 信. 2006. In “宝の海から白浜で出逢った生き物たち”. 233 pp. 紀伊民報, 和歌山県.
- 久保田 信・田名瀬英朋・武藤望生・東海林 明・木村一品・中坊徹次. 2011. 和歌山県田辺湾における2011年冬季の異例の数の凍死魚の漂着. 漂着物学会誌, 9: 13-16.